

直売所向け花きの栽培技術

切り花ハボタンの栽培

ハボタンは、冬の花壇や正月飾りに欠かせない植物として古くから栽培されています。正月飾りとして人気がある切り花ハボタンは、フラワーアレンジメントにも利用されるようになり、需要が伸びています。今回は、年末の直売所でも欠かせない切り花ハボタンのつくり方を紹介します。



写真1 切り花ハボタンのほ場

品種

切り花用栽培では、晴姿（白）・初夢（白）・初紅（赤）・冬紅（赤）・バイカラートーチ（白・複色）・ウインタートーチ（ピンク）[タキイ]・紅華美（赤）・雪華美（白）[サカタ]など、高性・切花用種を使います。

栽培

栽培にはあまり労力を必要としませんが、需要が年末に限られることから、

花壇用ハボタンよりやや早やまきし、密植と葉かきによって茎を伸ばしてコンパクトに仕上げる必要があります。

栽培には、日当たりが良くやや冷涼な気象条件（秋の低温で発色が促される）が適し、排水のよいやや重いめの土が適します。

タネまき

気温が下がって発色が始まる10月中旬頃までにある程度の大きさまで仕立てるためには、7月下旬～8月上旬のタネまきとなります。

128穴のセルトレーに1穴に1粒ずつまきとするか、直播栽培では、12～15cm間隔で条まきにします。発芽適温（20～25℃）では、2～3日で発芽してきます。タネをまく時期が高温期なので、遮光して涼しくしてやります。

育苗

発芽が揃ったら、萎れさせない程度にかん水を控え、日の当たる（朝日の当たる場所）風通しのいい場所で育苗し、徒長させないように管理します。

発芽後の生長は早く、10日前後で葉が触れ合うほどになるので、直まきしたものは、タネまき後2週間以内で込み合った苗を間引きします。

植え付け

セルトレーにまいたものは、本葉が2～3枚出た頃（タネまき後15～20日後）に、10～15cm 間隔に植え付けます。植え付け時期が遅れないように注意し、日差しの強い日中を避けて素早く植え付けます。スムーズに活着させることが、ボリュームのある切り花づくりのポイントです。

施肥

元肥は、比較的速効性の肥料をチッソ成分で10a 当たり8～12kg に抑えて施します。

葉色や生育が悪い場合は追肥を施しますが、施用は9月下旬ころまでとします。着色が始まる時期（10月中下旬頃）に肥料分が残っていると、綺麗に着色がしないことがあるので注意します。

ネット張り

フラワーネットは必ず張るようにします。マス目15×15cm、又は、12×12cmのネットを植え床の上に張ってから定植します。

生育に応じて順次上げていき、強風が吹いても倒れないようにします。

下葉かき

茎の太りを抑えて伸びやすくするには、定植後、本葉15～20枚頃から順次3～4回ぐらい、下葉を落として風通しをよくすることが大切です。なお、遅まき多肥栽培で下葉がきをせずに育てると結球することがあるので注意が必要です。

収穫・出荷

出荷は、着色が完成する11月下旬～12月にかけて行います。株を引き抜き、外側の緑葉を2～3層残し、下葉を落として出荷します。



写真2 収穫まじかの状態

